

授業計画(シラバス)

科目名	コンピュータ概論	指導担当者名	安齋 貴美子
実務経験	ソフトウェア開発会社にて開発業務に2年間従事		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	130時間(前期112時間、後期18時間)		週時間数 7時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・IT技術者として必要なIT技術の基本知識を身に付ける。 ・情報処理技術者試験(基本情報、応用情報、ITパスポート、情報セキュリティマネジメント)合格の為の知識の習得。 ・IT技術を解説するとともに、ソフトウェア開発の現場での応用例や注意事項を実例を交えながら指導する。 		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・章末テスト ・期末試験 ・各種検定(情報処理技術者試験、サーティファイ情報処理技術者能力認定試験) 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	テキスト 株式会社ウイネット「コンピュータ概論」および 授業配布のプリント 問題集 株式会社ウイネット「サーティファイ情報処理技術者能力認定試験問題集3級」「サーティファイ情報処理技術者能力認定試験問題集1・2級」		
授業外学習の方法	問題集を家庭学習用として配布		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	第1章 コンピュータの基礎知識	コンピュータと情報表現、補助単位、各種装置の分類、プログラムの作成から実行まで 現場での開発手順について
	2	第1章 コンピュータの基礎知識	ネットワークの基礎知識、ファイルとデータベースの基礎知識、コンピュータの種類、演習問題、章末テスト
	3	第2章 数値の表現	基数変換、ゾーン10進数とパック10進数、補数、固定小数点表現 プログラミン時のオーバーフロー対策
	4	第2章 数値の表現	浮動小数点表現、シフト、誤差、演習問題、章末テスト 誤差の発生するプログラミング例
	5	第3章 コンピュータ構成要素	プロセッサ、論理演算と論理回路、メモリ、入出力装置、入出力インターフェース、演習問題、章末テスト 開発におけるメモリ管理
	6	第4章 基礎理論	応用数学、情報に関する理論、計測・制御に関する理論、演習問題、章末テスト 応用例の紹介
	7	第5章 ソフトウェア	OSとミドルウェア、ファイルシステム、演習問題、章末テスト Windows/UNIX/iOS等現在のOSについて
	8	第6章 システム構成要素	システムの構成、システムの評価指標、演習問題
	9	第6章 システム構成要素	システムの評価指標、演習問題
	10	第6章 システム構成要素	章末テスト 実際の契約におけるSLAの内容について
	11	第7章 マルチメディア	マルチメディア技術、演習問題
	12	第7章 マルチメディア	マルチメディア応用、章末テスト
	13	第8章 ネットワーク	LAN、インターネット、伝送制御
	14	第8章 ネットワーク	ネットワーク応用、演習問題
	15	第8章 ネットワーク	章末テスト ネットワーク設計例の提示
	16	第9章 データベース	データベース方式、データ操作とSQL
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	コンピュータ概論	指導担当者名	安齋 貴美子
実務経験	ソフトウェア開発会社にて開発業務に2年間従事		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	130時間(前期112時間、後期18時間)		週時間数 7時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・IT技術者として必要なIT技術の基本知識を身に付ける。 ・情報処理技術者試験(基本情報、応用情報、ITパスポート、情報セキュリティマネジメント)合格の為の知識の習得。 ・IT技術を解説するとともに、ソフトウェア開発の現場での応用例や注意事項を実例を交えながら指導する。 		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・章末テスト ・期末試験 ・各種検定(情報処理技術者試験、サーティファイ情報処理技術者能力認定試験) 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	テキスト 株式会社ウイネット「コンピュータ概論」および 授業配布のプリント 問題集 株式会社ウイネット「サーティファイ情報処理技術者能力認定試験問題集3級」「サーティファイ情報処理技術者能力認定試験問題集1・2級」		
授業外学習の方法	問題集を家庭学習用として配布		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	第9章 データベース	トランザクション処理、データベースの設計と応用
	2	第9章 データベース	演習問題、章末テスト
	3	総まとめ	期末試験および各種問題演習(各種試験過去問題)を行い総合的な理解度を確かめる。
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用 3ターム:4時間			

授業計画(シラバス)

科目名	アルゴリズム	指導担当者名	本田 昌秀
実務経験	システム開発会社にてシステム開発業務に9年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	70時間		週時間数 5時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・IT技術者として必要なアルゴリズムの基本知識を身に付ける。 ・情報処理技術者試験(基本情報、応用情報、ITパスポート、情報セキュリティマネジメント)合格の為の知識の習得。 		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・章末テスト ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 株式会社ウイネット「アルゴリズムとデータ構造」および 授業配布のプリント		
授業外学習の方法	関連検定過去問題プリントを家庭学習用として配布		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	第1章 アルゴリズム入門 第2章 流れ図の基本パターン	アルゴリズムと流れ図、流れ図の記号、領域の概念、流れ図のパターン化、基本パターンの使い方、練習問題、章末テスト
	2	第3章 データ構造	データ構造の概要、配列、リスト、スタックとキュー、木構造、練習問題、章末テスト
	3	第4章 繰返し処理	不定回数の繰返し、一定回数の繰返し、ループ端記号、ループ端記号の特殊な使い方、二度読み処理、練習問題、章末テスト
	4	第5章 整数の計算	合計と平均、べき乗の計算、乗算と除算、最大・最小の抽出、練習問題、章末テスト
	5	第6章 配列操作	1次元配列、配列の移動、2次元配列、練習問題、章末テスト
	6	第7章 擬似言語の基本パターン	記述形式と基本パターン、擬似言語の基本パターンの使い方、練習問題、章末テスト
	7	第8章 擬似言語によるデータ構造	擬似言語による配列操作、擬似言語によるリスト操作、擬似言語によるスタック・キュー操作、擬似言語による木構造操作、練習問題、章末テスト
	8	第9章 探索処理	探索処理とは、線形探索、ブロック探索
	9	第9章 探索処理	2分探索、ハッシュ探索、練習問題、章末テスト
	10	第10章 整列処理	整列とは、基本選択法、基本交換法、基本挿入法
	11	第10章 整列処理	その他の整列方法、練習問題、章末テスト
	12	第11章 ファイル処理	ファイル処理、練習問題、章末テスト
	13	第12章 文字列操作	文字列操作の意義、文字と文字列の基本知識、基本的な文字列操作、練習問題、章末テスト
	14	第13章 ビット操作	ビット操作によるデータ処理、練習問題、章末テスト、期末試験
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	システム開発と情報化	指導担当者名	安齋貴美子
実務経験	ソフトウェア開発会社にて開発業務に2年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	126時間		週時間数 9時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・IT技術者として必要なIT技術の基本知識を身に付ける。 ・情報処理技術者試験(基本情報、応用情報、ITパスポート、情報セキュリティマネジメント)合格の為の知識の習得。 ・システム開発を行うための基本的手順、開発手法、管理手法を学習する。 ・システム運用業務経験を通しての留意点を話す。 		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・章末テスト ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 株式会社ウイネット「システム開発と情報化」および 授業配布のプリント 問題集 株式会社ウイネット「サーティファイ情報処理技術者能力認定試験問題集3級」「サーティファイ情報処理技術者能力認定試験問題集1・2級」		
授業外学習の方法	問題集を家庭学習用として配布		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	第1章 開発技術	ヒューマンインタフェースの設計、ソフトウェア開発手法、システム要件定義とシステム方式設計、ソフトウェア要件定義(要件定義技法)
	2	第1章 開発技術	ソフトウェア要件定義、ソフトウェア方式設計・ソフトウェア詳細設計、ソフトウェア詳細設計、ソフトウェアコード作成及びテスト
	3	第1章 開発技術	ソフトウェアコード作成及びテスト(テスト手法)、ソフトウェア結合～ソフトウェア受入れ、ソフトウェア保守、構成管理・変更管理、演習問題、章末テスト
	4	第2章 プログラム言語と開発ツール	プログラム言語、開発ツール、プログラム構造、演習問題、章末テスト
	5	第3章 セキュリティ	情報セキュリティ、暗号化と認証、演習問題、章末テスト セキュリティ事故の実例や現場の管理実態
	6	第4章 プロジェクトマネジメント	プロジェクトの日程計画、プロジェクトマネジメント、演習問題、章末テスト 現場での日程管理の重要性について
	7	第5章 サービスマネジメント	サービスマネジメント、システム監査、演習問題、章末テスト インシデント発生時の体験等
	8	第6章 システム戦略	システム戦略、演習問題
	9	第6章 システム戦略	システム企画、章末テスト
	10	第7章 経営戦略	経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント
	11	第7章 経営戦略	ビジネスインダストリ、演習問題、章末テスト
	12	第8章 企業と法務	経営・組織論、OR・IE、品質管理、会計・財務
	13	第8章 企業と法務	法務、標準化、演習問題、章末テスト
	14	総まとめ	期末試験および各種問題演習(各種試験過去問題)を行い総合的な理解度を確かめる。
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	Java	指導担当者名	佐藤 夢路
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	124時間		週時間数 9時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・IT技術者(プログラマ)として必要なJavaプログラミング技術を身に付ける。 ・情報処理技術者試験(基本情報)合格の為の言語知識の習得。 ・実際のシステム開発で得たJavaプログラミングテクニック、バグ回避手法の伝授。 		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・演習課題の提出 ・各種検定(情報処理技術者試験)等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 株式会社ウイネット「Java言語」(1~13ターム)		
授業外学習の方法	Java演習については授業内で演習が終了しない場合は家庭学習にて作成を行う		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	第1章 Java入門	Javaとは、オブジェクト指向とは、演習問題
	2	第2章 作成・コンパイル・実行	演習環境インストール、プログラム作成・コンパイル・実行、演習問題
	3	第3章 変数とデータ型	変数とデータ型、変数の出力、演習問題 オーバーフロー・誤差回避テクニック
	4	第4章 文字列	文字列(Stringクラス)、文字列を数値に変換する、演習問題
	5	第5章 分岐・繰り返し	if文の条件式、繰り返し処理、switch文
	6	第5章 分岐・繰り返し	break文とcontinue文、拡張for文、演習問題 可読性の高いプログラミングについて
	7	第6章 メソッド	メソッド、演習問題 オブジェクト指向プログラミングの利点について
	8	第7章 クラスとオブジェクト	クラスとオブジェクト、カプセル化、演習問題
	9	第8章 継承	継承、抽象クラス、演習問題
	10	第9章 総称	総称(Generics)、総称とコレクションクラス、演習問題
	11	第10章 配列	配列、オブジェクトの配列、演習問題
	12	第11章 例外	例外、例外の種類、演習問題 現場での例外処理の重要性
	13	第12章 インタフェース	インタフェース、演習問題
	14	第13章 パッケージ	パッケージ、演習問題
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用 14ターム:7時間			

授業計画(シラバス)

科目名	Android演習	指導担当者名	國井 稔
実務経験	フリープログラマーとしてソフトウェア開発業務に24年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	60時間		週時間数 6時間
学習到達目標	・Javaを使用したAndroidアプリケーション作成の基礎知識を実習を通して理解する		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 ・課題提出 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	やさしいAndroidプログラミング		
授業外学習の方法	授業内で演習が終了しない場合は家庭学習にて作成を行う		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	はじめの一歩	Androidアプリの概要を学習し、環境構築を行う
	2	Javaとクラスライブラリ	クラスオブジェクトを作成、クラス拡張
	3	アプリの基本1	レイアウト、ビューの仕組みを理解する
	4	アプリの基本2	イベント処理、ボタン・画面のタッチ処理
	5	いろいろなビュー	テキストビュー、リストの表示、ビューのカスタマイズ
	6	グラフィック	画像表示、アニメーション、図形の描画
	7	マルチメディア1	音声の記録、再生、テキスト読み上げ
	8	マルチメディア2	カメラで撮影、保存
	9	センサとマップ	加速度センサ、マップの使用
	10	アプリの連携	連絡帳の利用、通知機能、アクティビティ繊維
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	アプリケーション実習 I	指導担当者名	相樂 実紀
実務経験	企業内SEとして2年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科1年
授業方法	講義:	演習:	実習: 実技:
時間数	30時間		週時間数 3時間
学習到達目標	・文書作成ソフト「Word」の基本的な利用法を学ぶ。		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 ・章末練習問題の課題提出 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	テキスト 株式会社ウイネット 「Word2016クイックマスター〈基本編〉」		
授業外学習の方法	章末練習問題を課題として提出。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	Chapter1 Wordの基本	Wordの起動、Wordの画面構成、既存の文書を開く、画面の操作、画面の表示モード、Wordの終了 について学ぶ
	2	Chapter2 文字の入力と編集の基本操作	新規文書の作成、日本語入力システム、文字の入力と変換、単語の登録、文書の保存、文字の選択、文字列の編集とコピー・移動、操作アシストの使い方
	3	Chapter3 文書の編集	ページの書式設定、文字の書式設定、文字幅と文字間隔の設定、文字列の配置 について学ぶ
	4	Chapter3 文書の編集	字下げと行間の設定、禁則処理、罫線と網かけ について学ぶ
	5	Chapter4 文書の印刷	改ページの挿入、ヘッダーとフッターの設定、印刷イメージの確認方法、印刷の実行について学ぶ
	6	Chapter5 文書の作成	入力オートフォーマット/あいさつ文、入力オートフォーマット/段落番号、段落番号の書式設定、箇条書きの設定 について学ぶ
	7	Chapter5 文書の作成	タブ、インデント、クリックアンドタイプ、ビジネス文書の作成例 について学ぶ
	8	Chapter6 表を使った文書の作成	表の作成、表の選択方法 について学ぶ
	9	Chapter6 表を使った文書の作成	表の編集、表の装飾 について学ぶ
	10	Chapter7 図形や画像を使った文書の作成	この章で学習する内容、図形の作成、図形の編集 について学ぶ
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーション I	指導担当者名	橋本 友子
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	30時間		週時間数 3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要なプレゼンテーション知識を身に付ける。 ・模擬プレゼンテーションを通して発表のノウハウを身に付ける。 ・就職試験、各種コンペプレゼンテーション時に活用できる技術の習得。 ・就職後、クライアントへのプレゼンテーション、システムの説明、打ち合わせ等に利用できる話術の習得。 		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・模擬プレゼンテーション 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	テキスト 株式会社ウイネット「プレゼンテーション技法」 および 授業配布のプリント		
授業外学習の方法	テキストの予習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	ワークショップで学ぶためのルール	ワークショップで学ぶためのルール、振り返り、フィードバックについて学ぶ
	2	コミュニケーションの基礎知識	コミュニケーションの基本、コミュニケーションの良好な状態とは、集団の意思決定、価値観を伝える、受容する について学ぶ
	3	意見を出すための基礎技術	意見とは、意見の内容、意見を出すときの留意点、意見形成のために について学ぶ
	4	プレゼンテーションツールの技術	プレゼンテーションツールとは、プレゼンテーションツール作成の基礎知識 について学ぶ
	5	プレゼンテーションツールの技術	プレゼンテーションツール別プレゼンテーションの留意点、視覚に訴えるプレゼンテーション資料の作成技術 について学ぶ
	6	ビジネスコミュニケーションの技術	ビジネスコミュニケーション、ホウレンソウ知っていますか、報告技術の基本、連絡、相談 について学ぶ
	7	論理的思考の基礎	論理的思考の大切さ、論理的思考とは、主張を裏付けるデータ・情報、論理的表現とは、論理構築のための情報収集技術、論理的思考・表現の訓練
	8	プレゼンテーション演習	プレゼンテーション課題説明、プレゼンテーション資料制作を行う
	9	プレゼンテーション演習	プレゼンテーション資料制作を行う
	10	プレゼンテーション演習	プレゼンテーションを行いフィードバックを受ける
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	就職実務	指導担当者名	添田 一宏
実務経験			実務経験:
開講時期	1年次 後期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	147時間(1年次60時間、2年次87時間)		週時間数 6時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動の基本的な流れを理解する。 ・就職活動に必要な知識を身に付ける。 		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・課題提出 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	テキスト 株式会社ウイネット「勝つための就職ガイドSUCCESS」		
授業外学習の方法	提出物の作成(自己分析シート、自己PR、志望業種・職種の洗い出し、志望動機作成、エントリーシート、履歴書)		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	就職活動の準備とスタート	就職活動の心構え、就職活動の流れ
	2	自分と職業を理解する	自分自身を知る、職業を知る、志望動機
	3	自分と職業を理解する	個別作業 自己分析シート、自己PR、志望業種・職種の洗い出し、志望動機作成
	4	情報収集・企業研究	情報収集のポイント、企業研究の方法
	5	情報収集・企業研究	個別作業 受験希望企業の検索
	6	企業訪問	作成書類(エントリーシート、履歴書)、企業訪問のしかた
	7	企業訪問	個別作業 エントリーシート、履歴書
	8	就職試験	就職試験のマナー、面接試験対策、筆記試験対策、受験後の報告
	9	就職試験	面接試験練習
	10	就職試験	筆記試験練習
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	就職実務	指導担当者名	添田 一宏
実務経験			実務経験:
開講時期	2年次 前期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	147時間(1年次60時間、2年次87時間)		週時間数 6時間
学習到達目標	就職試験に向けた事前準備の実施 履歴書指導		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 期末課題より100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	テキスト 株式会社ウイネット「勝つための就職ガイドSUCCESS」		
授業外学習の方法	提出物の作成(自己分析シート、自己PR、志望業種・職種の洗い出し、志望動機作成、エントリーシート、履歴書)		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	基本動作	立つ姿勢、お辞儀、椅子の立ち座り、歩き方、表情
	2	言葉遣い	正しい言葉遣い、話し方聞き方 敬語
	3	電話対応	正しい電話対応 注意点 受け方
	4	電子メールマナー	電子メール使用の注意点 文例
	5	面接対策	面接について考える
	6	自己分析	自己分析のポイント
	7	自己PR作成	自己PRの作り方
	8	自己PR作成	自己PRの作り方
	9	志望動機	志望動機の作り方
	10	志望動機	志望動機の作り方
	11	履歴書作成	履歴書の作成
	12	履歴書作成	履歴書の作成
	13	エントリーシート	エントリーシートの作成
	14	面接試験	面接試験のマナー
	15	面接試験	面接試験のマナー
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用 15ターム:3時間			

授業計画(シラバス)

科目名	情報知識応用	指導担当者名	安齋 貴美子
実務経験	ソフトウェア開発会社にてソフトウェア開発業務に2年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	90時間		週時間数 9時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済産業省「ITパスポート試験」合格に向けた講義を行う。 ・週1回以上 業者模試、過去問題により到達状況を把握し本試験合格を目指す。 		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・各種模擬試験成績 ・本試験(ITパスポート試験)結果等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	業者模試 iTEC、TAC、インフォテックサーブ、ウイネット 過去問題 IPA ITパスポートサイトより過去問題をプリント インフォテックサーブ ITパスポート問題集		
授業外学習の方法	ITパスポート過去問サイト「過去問道場」での答練を指導。 ウイネット業者模試(Webテスト)は宿題。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	第1部 ハードウェア	ハードウェア分野の模擬試験及びその解説
	2	第2部 情報処理システム	情報処理システム分野の模擬試験及びその解説
	3	第3部 ソフトウェア	ソフトウェア分野の模擬試験及びその解説
	4	第4部 データベース	データベース分野の模擬試験及びその解説
	5	第5部 ネットワーク	ネットワーク分野の模擬試験及びその解説
	6	第6部 セキュリティ	セキュリティ分野の模擬試験及びその解説
	7	第7部 データ構造とアルゴリズム	データ構造とアルゴリズム分野の模擬試験及びその解説
	8	第8部 ストラテジ	ストラテジ分野の模擬試験及びその解説
	9	第9部 開発技術	開発技術分野の模擬試験及びその解説
	10	第10部 マネジメント	マネジメント分野の模擬試験及びその解説
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	Android制作	指導担当者名	國井 稔
実務経験	フリープログラマーとしてソフトウェア開発業務に24年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科1年
授業方法	講義:	演習:	実習: 実技:
時間数	240時間		週時間数 30時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Javaを使用してAndroidアプリケーションを完成させる ・作成したアプリケーションからデータベース接続・ネットワーク接続が出来るようになる 		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・課題提出 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	はじめてのAndroidプログラミング		
授業外学習の方法	テキストの予習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	ウィジェット	ウィジェット作成、ウィジェットへの時計・テキスト表示
	2	ファイルとデータベース	ファイル保存、データベース接続
	3	ネットワーク	メール送信、Webページの表示
	4	企画・設計	作成するアプリケーションの企画・設計書作成
	5	プログラミング1	設計書をもとにプログラミング
	6	プログラミング2	設計書をもとにプログラミング
	7	テスト	プログラムのテスト・デバッグ
	8	発表	プレゼン資料作成、発表練習
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	Windowsストアアプリ演習	指導担当者名	相樂 実紀
実務経験	企業内SEとして2年従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	66時間		週時間数 6時間
学習到達目標	C#言語で学んだ知識を活かし、ストアアプリ開発を学ぶ XAMLによる画面のレイアウトを学ぶ 非同期API連携について		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 ・作成したアプリの発表会を実施し、完成度/プレゼン内容/提出物のソースコードを確認し、適切な記述がされているかを基に100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	Windowsストアアプリ開発入門		
授業外学習の方法	授業内容を復習する為の課題を配布する		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	Windowsストアアプリとは	ストアアプリの特徴と開発環境からアプリの配布まで
	2	XAML	XAMLとは XMLの復習 マッピングツール
	3	基本構造とUI作成	テンプレート UI要素とコンテンツモデル VisualStudioを使ったコントロールの配置
	4	レイアウト	Windowsストアアプリのレイアウトシステム Grid Panel派生コントロール StackPanel Canvas
	5	リソースとスタイル	リソース XAMLデザイナーを使ったリソースの設定 スタイル StandardStyles.xaml
	6	データバインディング	データバインディングとは Bindingクラス Bindingに利用するデータソースの指定 プロパティパス
	7	コントロールテンプレートとデータテンプレート	コントロールカスタマイズの手順 DataTemplateの定義 テンプレートの編集 GridView/ListView
	8	アニメーション化とVisualStateManager	アニメーションが設定されているコントロールの利用 アニメーションの作成
	9	コントラクトとアプリデータ	アプリとコントラクト Windowsアクティベーションプラットフォーム アプリの保存 コントラクトと拡張機能
	10	その他のWinRT API	入力API UI表示 ファイル操作
	11	相互運用 非同期処理	開発環境と相互運用 非同期API
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	iPhoneアプリ実習	指導担当者名	國井 稔
実務経験	フリープログラマーとしてソフトウェア開発業務に24年間携わる		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	132時間		週時間数 12時間
学習到達目標	iPhone、iPad向けのアプリケーションの開発方法を実習を通して学習する 各種センサーの使い方を学ぶ		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 課題アプリケーションの提出により100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	講師作成資料		
授業外学習 の方法	実習の復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	iOSの基礎	iOSの基礎知識を学習する
	2	iOSの基礎	iOSの基礎知識を学習する
	3	いろいろなビュー	各UIパーツの種類と使い方を学習する
	4	いろいろなビュー	各UIパーツの種類と使い方を学習する
	5	グラフィック	画像の表示、プログラムでの描画方法を学習する
	6	グラフィック	画像の表示、プログラムでの描画方法を学習する
	7	マルチメディア	音を出力、動画再生方法を学習する
	8	マルチメディア	音を出力、動画再生方法を学習する
	9	センサとマップ	GPS、加速度センサーの使用方法を学習する
	10	センサとマップ	GPS、加速度センサーの使用方法を学習する
	11	期末課題	提出課題の作成
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーションⅡ	指導担当者名	橋本 友子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	66時間		週時間数 6時間
学習到達目標	グループワークを行いコミュニケーション能力の向上を図る 発表を行いプレゼンテーション能力の向上を図る Powerpointを使つての資料作成		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 ・実習課題により100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	オリジナルテキスト		
授業外学習の方法	テキストの予習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	プレゼンテーション事前準備	PowerPointのインストール
	2	PowerPointの使い方を覚えよう	スライドの作成方法、オブジェクトの配置
	3	PowerPointの使い方を覚えよう	アニメーションの設定
	4	見やすいPowerPointの作り方	フォント、オブジェクトの配置を学ぶ
	5	見やすいPowerPointの作り方	PowerPoint用で使用する文章を学ぶ
	6	グラフの見せ方を学ぼう	円グラフ、折れ線グラフ等の効率的な使い方
	7	グラフの見せ方を学ぼう	帯グラフ、棒グラフ等の効率的な使い方
	8	話し方を学ぶ	聞き取りやすい話し方、言葉を学ぼう
	9	話し方を学ぶ	聞き取りやすい話し方、言葉を学ぼう
	10	発表準備	テーマを元にPowerPointの作成
	11	発表	作成したPowerPointを使い発表をする
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	Webデザイン演習	指導担当者名	相樂 実紀
実務経験	企業内SEとして2年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	72時間		週時間数 12時間
学習到達目標	HTMLの基礎を学びWebページを作成する CSSの基礎を学びWebページのデザインを作成する サーバ接続の方法について学ぶ		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・演習形式を複数行い100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	例題50+演習問題50でしっかり学ぶ HTML5+CSS標準テキスト		
授業外学習の方法	教材の問題を使い、家庭で学習を行う。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	ホームページとHTMLの仕組み テキストに意味を付ける	HTMLの基本構造 基本とテキスト要素
	2	画像を表示する リンクの指定	画像を利用するための準備 リンクとは
	3	CSSで文字を装飾する	CSSの役割
	4	ホームページを飾る	背景色とテキスト
	5	ホームページを公開する	ホームページ公開の流れ
	6	サーバにHTMLを配置する	WinSCPを使い作成したHTMLファイルをサーバに配置する。
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	iPhoneアプリ開発		指導担当者名	國井 稔
実務経験	フリープログラマーとしてソフトウェア開発業務に24年間携わる			実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	72時間		週時間数	12時間
学習到達目標	アプリケーションの特徴を学ぶ iPhone、iPad向けのアプリケーションの開発方法を実習を通して学習する			
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 課題アプリケーションの提出により100点満点で点数化して総合評価する			
使用教材	オリジナルテキスト			
授業外学習の方法	テキストの予習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	アプリの連携	他のアプリケーションとの連携方法を学習する	
	2	アプリの画面	アプリの画面切り替え方法を学習する	
	3	ファイルとデータベース	ファイルの読込、書出の方法を学習する データベースの使用方法を学習する	
	4	ネットワーク	メールの送信、Webページを表示する方法を学習する RSSリーダーの作成方法を学習する	
	5	アプリの開発	アプリケーションの仕上げの仕方を学習する	
	6	期末課題	提出課題の作成	
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用				

授業計画(シラバス)

科目名	アプリケーション実習Ⅱ	指導担当者名	橋本 友子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	21時間		週時間数 3時間
学習到達目標	・表計算ソフト「Excel」の基本的な利用法を学ぶ。		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 ・章末練習問題の課題提出 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	オリジナルテキスト		
授業外学習 の方法	テキストの予習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	第1章 文書の作成と管理	文書を書式設定する
	2	第2章 文字、段落、セクションの書式設定	文字列や段落を並べ替える、グループ化する
	3	第3章 表やリストの作成	表、リストを作成する、変更する
	4	第4章 参考資料の適用	文末脚注、脚注、引用文献を作成する
	5	第5章 オブジェクトの挿入と書式設定	文書パーツを挿入する、書式設定する
	6	まとめ	課題を作成する
	7	まとめ	課題を作成する
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	通信ネットワーク	指導担当者名	安齋 貴美子
実務経験	ソフトウェア開発企業でソフトウェア開発業務に2年間携わる		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	21時間		週時間数 3時間
学習到達目標	ネットワークの基礎学習を行う コマンドプロンプトにてコマンド操作を学習する ネットワークの危険性について学習を行う		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 ・期末試験を実施し、100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	そこが知りたいTCP/IP FAQ		
授業外学習の方法	家庭でコマンドを実行し復習、予習を行う。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	上位プロトコルの役割	トランスポート層・ポート番号 TCPとUDP DNS・HTTP SMTP・POP3・IMAP4
	2	ルータ関連技術	ルータの仕組みとゲートウェイ NAT・NAPT
	3	Windowsネットワーク/セキュリティ技術	ワークグループとドメイン Windowsネットワークでのファイル共有とアクセス権
	4	Windows標準ネットワークコマンド	pingコマンド・ipconfigコマンド arpコマンド・tracertコマンド
	5	Windows標準ネットワーク特別コマンド	netstatコマンド nslookupコマンド
	6	Webサーバのネットワーク	SSH, TELNETのログイン
	7	Webサーバのネットワーク	DHCP, VPNの設定
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネス実務	指導担当者名	添田 一宏
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	21時間		週時間数 3時間
学習到達目標	社会人になるためのビジネスマナーを身につける 就職試験に向けた事前準備の実施		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 期末課題より100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	オリジナルテキスト		
授業外学習 の方法	テキストの予習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	自分を知る	自己分析
	2	自分を知る	自己分析
	3	業界を知る	業界研究
	4	業界を知る	業界研究
	5	企業を知る	企業研究
	6	企業を知る	企業研究
	7	お礼状の作成	お礼状の書き方を学ぶ
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	就職試験対策	指導担当者名	添田 一宏
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	180時間		週時間数 30時間
学習到達目標	ビジネスマナーを身につける 就職試験に向けた準備		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 期末課題より100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	オリジナルテキスト		
授業外学習 の方法	テキストの予習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後期	1	セミナー・会社説明会に参加しよう	企業訪問、説明会参加
	2	セミナー・会社説明会に参加しよう	企業訪問、説明会参加
	3	筆記試験・適性検査対策	筆記試験、適性試験対策
	4	筆記試験・適性検査対策	筆記試験、適性試験対策
	5	内定(内々定)をもらったら	内定後の書類の流れを説明
	6	内定(内々定)をもらったら	内定後の書類の流れを説明
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作	指導担当者名	橋本 友子
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	モバイルアプリケーション科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	234時間		週時間数 18時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーションの企画から実装まで行い、プレゼンする ・3年間の学習成果を発表することで、後輩の学習意欲向上に繋げる 		
評価方法 評価基準	出席率・授業態度・提出物及びプレゼンテーションの内容にて評価を行う		
使用教材	オリジナルテキスト		
授業外学習 の方法	テキストの予習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	企画作成	企画案の作成
	2	企画作成	企画案の作成
	3	要件定義	企画より要件を抜き出す
	4	要件定義	企画より要件を抜き出す
	5	外部設計	クライアントにわかるような書類を作成する
	6	外部設計	クライアントにわかるような書類を作成する
	7	システム設計	画面遷移図
	8	システム設計	基本設計書
	9	プログラミング	設計書を基にコーディング
	10	プログラミング	設計書を基にコーディング
	11	テスト	単体テスト,結合テスト
	12	テスト	単体テスト,結合テスト
	13	成果発表会	完成したアプリの発表会
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
履修上の留意点 出席率80%に満たない場合は期末試験の受験資格を得られない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用			